

相生町の過疎実態と住民意識

社会班（徳島社会学会）

桂 啓人¹⁾・長澤 寛二²⁾・近藤 孝造³⁾

1. はじめに

21世紀を迎えるにあたって、徳島県では過疎化により地域共同体の存立すら危ぶまれるような状況になっている。徳島県は、全国平均よりもさらに過疎化が進み、各市町村でもその対策を進めているところである。しかし、地元住民は、自分たちの生活あるいは行政に対してどの程度満足しているのだろうか。われわれは、本調査に参加するについて、住民の率直な考えを知るために30代～40代の町を担っている年齢層に絞って、自分たちの生活あるいは相生町に対する満足度を中心とする意識・態度を探ることで地域満足度を高めることを目的とした。

この問題への具体的接近方法としては、まず第一に、相生町の徳島県内における社会経済的位置づけを確認する。次に、調査の単純集計から住民の意識・態度などを把握する。第三に、住民の相生町に対する満足度を測るために、多変量解析の一種である数量化2類を用いて分析を実施し、最後に総合的考察を行う。

2. 過疎得点による過疎地域の分類

徳島県の過疎実態を定量的に明らかにするために、県下50市町村について表1に示す16の過疎指標算出データを用意した。このデータを用いて主成分分析を行い、過疎に関する情報をできるだけ多く含む総合特性指標を導出し過疎構造を明らかにした。主成分分析は、対象とする変量群の中から群全体の特徴を表す典型的な指標、すなわち主成分を見いだす方法である。

分析の結果第1主成分の固有値は9.8597で、寄与率は61.6231%であった。第1主成分が何を意味しているかは、各変量の重み係数（表2）の符号と絶対値の大きさによって解釈する。第1主成分と正の相関を示す指標は、「人口増加率」「人口密度」「出生率」「市町村村民所得」「財政力指数」

表1 16の過疎指標

	指標名
人口指標	人口増加率
	人口密度
	高齢者のいる世帯割合
	老年人口割合
	平均年齢
	出生率
経済指標	死亡率
	市町村村民所得
	第1次産業就業者比率
	財政力指数
社会指標	自主財源割合
	医師数
	交通事故発生件数
	上下水道普及率
	道路舗装率
	小学校1学級当たり児童数

1) 徳島県立阿波西高等学校

2) 徳島県立徳島北高等学校

3) 徳島工業短期大学

「自主財源割合」「医師数」「交通事故発生件数（人口10万人あたり）」「上下水道普及率」「道路舗装率」「小学校1学級あたり児童数」である。これらは係数が大きいほど、都市化（非過疎化）を示す指標と解釈できる。

他方、第1主成分と負の相関を示している指標は「高齢者のいる世帯割合」「老年人口割合」「平均年齢」「死亡率」「第1次産業就業者比率」であり、これらはその係数が大きくなるほど過疎化を示すと解釈できる。従って第1主成分は正方向に過密、負方向に過疎を示す総合指標（過疎指標）と考えられる。

過疎指標は過疎の程度を数量的に示しているのので、これを尺度として対象地域を過疎地域と非過疎地域とに分類できる。過疎得点は、各変量の重み係数とこれに対応する過疎指標の各市町村の標準変量の値との積和によって求められる。過疎得点によって50市町村を分類したものが、表3である。

「過疎地域」は、その地域特性として山間部に位置し都市部へ向かう主要幹線網が整備されておらず徳島市から遠距離にあり、通勤圏からはずれている。

「準過疎地域」は主要幹線道路に沿っているが都市部からの距離が遠く通勤に不便であり、「過疎地域」の周辺に位置している町村が多い。

表2 各変量の重み係数

	主成分1	主成分2
人口増加率	0.1427	0.3901
人口密度	0.2576	-0.1972
高齢者のいる世帯割合	-0.2778	0.2784
老年人口割合	-0.3068	-0.0736
平均年齢	-0.3019	-0.0674
出生率	0.2615	0.1373
死亡率	-0.2753	-0.0496
市町村民所得	0.2682	0.0148
第1次産業就業者比率	-0.1706	0.5812
財政力指数	0.2918	-0.1185
自主財源割合	0.2680	-0.1586
医師数	0.1463	-0.1630
交通事故発生件数	0.2476	-0.0612
上下水道普及率	0.2121	0.2681
道路舗装率	0.2085	0.4458
小学校1学級当たり児童数	0.2784	0.1488

固有値と寄与率

主成分No.	固有値	寄与率%	累積%
1	9.8597	61.6231	61.6231
2	1.4681	9.1755	70.7986

表3 市町村過疎得点表

	過疎地域				準過疎地域			
	順位	前回	市町村名	過疎得点	順位	前回	市町村名	過疎得点
過疎地域	1	1	一宇村	-5.7076	16	18	相生町	-1.8913
	2	6	木屋平村	-5.2778	17	17	海部町	-1.7226
	3	4	上勝町	-4.7641	18	25	穴吹町	-1.4495
	4	3	美郷村	-4.5298	19	23	貞光町	-1.3966
	5	2	西祖谷山村	-4.3814	20	16	穴喰町	-0.9294
	6	7	東祖谷山村	-4.1236	21	22	勝浦町	-0.5866
	7	9	神山町	-3.6432	22	24	牟岐町	-0.5708
	8	10	木頭村	-3.1346	23	19	日和佐町	-0.5333
	9	15	木沢村	-3.1081	24	26	三好町	-0.3099
	10	14	山城町	-2.8104	25	29	美馬町	-0.2623
	11	8	由岐町	-2.5837	26	13	海南町	-0.2460
	12	27	井川町	-2.3808	27	20	三野町	0.0003
	13	5	上那賀町	-2.1269	28	28	市場町	0.3769
	14	11	半田町	-2.0943				
	15	12	佐那河内村	-2.0710				
都市地域	準都市地域				都市地域			
	順位	前回	市町村名	過疎得点	順位	前回	市町村名	過疎得点
	29	34	池田町	0.5162	42	42	石井町	3.1285
	30	32	山川町	0.5974	43	41	阿南市	3.2400
	31	21	鷺敷町	0.8990	44	43	鳴門市	3.7364
	32	38	吉野町	0.9005	45	45	小松島市	3.7521
	33	31	三加茂町	0.9515	46	46	羽ノ浦町	4.1302
	34	33	阿波町	0.9766	47	44	北島町	6.3782
	35	30	土成町	1.1755	48	50	徳島市	6.4174
	36	36	川島町	1.3695	49	47	松茂町	6.4464
	37	35	脇町	1.9287	50	48	藍住町	6.5837
	38	39	板野町	2.0860				
	39	40	上板町	2.1500				
	40	37	那賀川町	2.2057				
41	44	鴨島町	2.6887					

「準都市地域」は吉野川流域の田園地帯に多く、農業が盛んな地域である。都市部への通勤も可能である。

「都市地域」は徳島市に隣接し大企業が進出している地域である。なお表3中の前回順位とは、以前半田町を対象に行った阿波学会総合学術調査のときの結果である。

この結果、相生町は準過疎地域に分類され16番目の過疎地であり、過疎地域の平均的な位置にある。次節では過疎が進行している状況を標準的に示している相生町の住民意識の調査をする。

3. 相生町の満足度調査の概要

1) 相生町の調査項目の概要

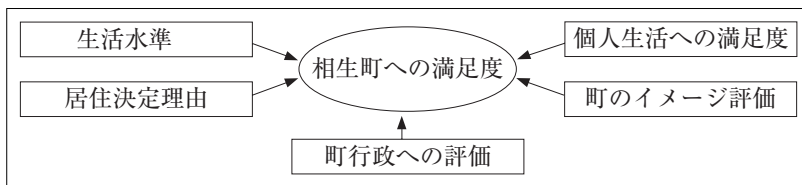


図1 相生町の満足度調査の要因モデル

調査を実施するについて、相生町民の満足度を測るために図1に示す要因モデルを考えた。

2) 調査対象者の概要

この調査の実施概要は表4に示したとおりである。調査は相生町内の全児童・生徒の両親を対象として行ったが、兄弟がいる場合は長子だけに配布を依頼したので、324人の回収となった。

3) 回答者の基本属性

今回の調査は、両親を対象として行った。父親と母親との男女比はほぼ同じであった(表5)。年齢については、「40歳以上」が6割を超えた(表6)。父親の職業については、「工具・建設」(22.3%)と「公務員」(21.7%)がほぼ同率で、続いて「専門職・管理職」(17.5%)が多い(表7)。母親の職業につい

表4 調査実施概要

調査地域	徳島県那賀郡相生町
調査対象	相生町立小学校と中学校の父親及び母親
標本数	生徒数306人
標本抽出法	全数調査
調査方法	質問紙法(配票調査法)
調査期日	平成12年6月
回収標本数	324人

表5 性別 (%)

男性	48.0
女性	52.0
合計	100.0

表6 年齢 (%)

40歳未満	36.8
40歳以上	63.2
合計	100.0

表7 職業(男性) (%)

専門職・管理職	17.5
工具・建設	22.3
公務員	21.7
自営業	16.3
農林業	7.2
その他	15.1
合計	100.0

では、「一般社員」(43.6%)が最も多く、「パート勤務」(23.8%)、「専業主婦」(13.3%)と続く(表8)。仕事場については、「相生町内」(66.6%)が3分の2を占める(表9)。家族構成については、「三世代家族」(57.8%)が約6割を占め、親世代との同居の高さが指摘できる(表10)。相生町にいつから住んでいるかについては、「結婚を機会に他市町村から転入」(33.8%)、「子供の頃からずっと」(33.5%)が高い。男女別のクロス集計をすると、前者は母親、後者は父親に顕著である(表11)。

父親の兄弟での続柄は「長男」(71.1%)が最も多かった(表12)。

健康状態は、「良好」(77.1%)が約8割であった(表13)。体力への自信については、「自信がある」(46.3%)が約5割で、約2割の人が「不安がある」(23.0%)と答えている(表14)。

4) 生活水準

家の暮らし向きについては、「どちらとも」(53.4%)が最も多く、「豊か」(23.6%)と「豊かでない」(23.0%)が同率で並んでいる(表15)。暮らし向きの10年の変化については、「変わらない」(50.1%)が最も多いが、「苦しくなった」(31.6%)も約3割を超えている(表16)。日本社会の経済力については、「弱い」(54.8%)が5割を超えていて、「強い」(9.0%)は1割に満たない(表17)。日本社会の生活水準については、「高い」(43.2%)と「どちらとも」(39.6%)がほぼ同率である(表18)。

5) 町のイメージ評価

表8 職業(女性) (%)

専業主婦	13.3
パート勤務	23.8
一般社員	43.6
家事に従事	10.5
その他	8.8
合計	100.0

表9 職場の場所 (%)

相生町内	66.6
相生町外	33.4
合計	100.0

表10 家族構成 (%)

核(夫婦)家族	24.4
三世代家族	57.8
その他	17.8
合計	100.0

表11 相生町にいつから住んでいるか (%)

子供の頃からずっと住んでいる	33.5
町外に住んだことがある	26.5
結婚を機会に他市町村から転入	33.8
他市町村から転入(結婚以外)	6.2
合計	100.0

表12 兄弟での続柄(男性) (%)

長男	71.1
その他	28.9
合計	100.0

表13 健康状態 (%)

良好	77.1
どちらとも	14.0
良くない	8.9
合計	100.0

表14 体力への自信 (%)

自信がある	46.3
どちらとも	30.7
不安がある	23.0
合計	100.0

表15 家の暮らし向き (%)

豊か	23.6
どちらとも	53.4
豊かでない	23.0
合計	100.0

表16 暮らし向きの10年の変化 (%)

良くなった	18.2
変わらない	50.1
苦しくなった	31.6
合計	100.0

相生町のイメージを、明るい、自由、面白い、好きという4つの側面から探ってみた。明るいかどうかについては、「どちらとも」(41.3%)が最も多く、「やや明るい」(24.7%)、「やや暗い」(20.8%)、「明るい」(6.9%)、「暗い」(6.3%)と続く。自由かどうかについては「どちらとも」(33.9%)が最も多く、「やや不自由な」(24.2%)、「やや自由な」(22.1%)、「不自由な」(13.3%)「自由な」(6.4%)と続く。面白いかどうかについても「どちらとも」(45.2%)が最も多く、「やや面白くない」(23.0%)、「やや面白い」(17.3%)、「面白くない」(11.5%)、「面白い」(3.0%)と続く。好きかどうかについても「どちらとも」(45.4%)が最も多く、「やや好き」(26.8%)、「好き」(13.7%)、「やや嫌い」(8.2%)、「嫌い」(5.8%)と続く。

どの側面も「どちらとも」が最も多く、相生町に対する明確なイメージが持ちにくい状況が見て取れる。また、この4つの側面の中でポジティブなイメージの割合が大きかったのは、相生町が好きかどうかの側面であった(表19～表22)。

相生町の将来の展望については、「やや衰退する」(37.2%)が最も多く、「衰退する」(24.5%)をあわせると約6割の人が衰退すると考えていることがわかる。発展する(「発展する」と「やや発展する」の合計)と考えている人は、1割にすぎない(表23)。

東京や大阪のような大都市の生活をどのように見ているかについては、「大都市での生活は、決して豊かではない」<都会否定型>(57.8%)が最も多く、「豊かでうらやましいが、生活したいとは思わない」<都会肯定・

表17 日本社会の経済力 (%)

強い	9.0
どちらとも	36.2
弱い	54.8
合計	100.0

表18 日本社会の生活水準 (%)

高い	43.2
どちらとも	39.6
低い	17.1
合計	100.0

表19 町のイメージ① (%)

明るい	6.9
やや明るい	24.7
どちらとも	41.3
やや暗い	20.8
暗い	6.3
合計	100.0

表20 町のイメージ② (%)

自由な	6.4
やや自由な	22.1
どちらとも	33.9
やや不自由な	24.2
不自由な	13.3
合計	100.0

表21 町のイメージ③ (%)

面白い	3.0
やや面白い	17.3
どちらとも	45.2
やや面白くない	23.0
面白くない	11.5
合計	100.0

表22 町のイメージ④ (%)

好き	13.7
やや好き	26.8
どちらとも	45.4
やや嫌い	8.2
嫌い	5.8
合計	100.0

表23 町の将来 (%)

発展する	3.2
やや発展する	7.7
どちらとも	27.4
やや衰退する	37.2
衰退する	24.5
合計	100.0

表24 都会観 (%)

大変豊かでうらやましいので生活したい	7.6
豊かでうらやましいが、生活したいと思わない	34.7
大都市での生活は、決して豊かではない	57.8
合計	100.0

非選択型> (34.7%) が続き、「大変豊かでうらやましいので生活したい」< 都会羨望型 > (7.6%) は、1割に満たない (表24)。

6) 居住決定理由

相生町に住むことを主体的に決めたかどうかについては、「どちらかといえば周りの状況でやむをえず決めた」(31.1%) が最も多い。これに「周りの状況でやむをえず決めた」(18.6%) をあわせると49.7%となり、約半数が非主体的に居住場所を決定していることがわかる。主体的に決定した人の割合は、35.5% (「自分の意志で主体的に決めた」と「どちらかといえば自分の意志で主体的に決めたと合計」) であった (表25)。相生町への居住理由で最も多かったのは「結婚したから」(40.2%) であった。

これは、回答者の約半数が女性であるためだと考えられる。それ以外で最も大きな割合を示したのは、「親・土地・家のことが気にかかるから」(25.5%) であった。約4分の1の人が、伝統的家族規範意識に基づいた居住理由をあげているのである。また、伝統的価値観にとらわれずに相生町を選んだ人 (「気楽で生活しやすいから」) の割合は7.6%と少数であった (表26)。

親を大切にしているかどうかについては、「大切にしている」(64.6%) が多数を占め、「大切にしていない」は8%にすぎなかった (表27)。

7) 町行政への評価

町政に対する評価を、地場産業育成策、高齢者福祉策、少子化対策の3つの側面から探ってみた。地場産業育成については、「どちらとも」(33.7%) が最も多く、「あまりやっていない」(26.3%)、「まあまあやっている」(23.1%)、「やっていない」(13.6%)、「よくやっている」(3.3%) と続く。高齢者福祉策については「まあまあやっている」(47.5%) が最も多く、「よくやっている」(22.0%)、「どちらとも」(22.0%)、「あまりやっていない」(5.0%)、「やっていない」(3.5%) と続く。町の高齢者福祉策に対する評価は高いといえる。少子化対策については、「あまりやっていない」(31.3%) が最も多く、「どちらとも」(27.4%)、「まあまあやっている」(19.2%)、「やっていない」(18.6%)、「よくやっている」(3.5%) と続く (表28~30)。町づくりへの参加希望については、「どちらとも」(38.1%)

表25 町に住むことをどのように決定したか (%)

自分の意志で主体的に決めた	16.3
どちらかといえば自分の意志で主体的に決めた	19.2
どちらとも	14.8
どちらかといえば周りの状況でやむをえず決めた	31.1
周りの状況でやむをえず決めた	18.6
合計	100.0

表26 町に住む理由 (%)

生まれ育ったところだから	17.6
親・土地・家のことが気にかかるから	25.5
気楽で生活しやすいから	7.6
結婚したから	40.2
その他	9.1
合計	100.0

表27 親を大切にしている (%)

大切にしている	64.6
どちらとも	27.4
大切にしていない	8.0
合計	100.0

が最も多く、「まあまあ参加したい」(34.6%)、「積極的に参加したい」(12.9%)と続く。参加したくない割合(「あまり参加したくない」と「参加したくない」の合計)は、14.4%と少ない(表31)。

8) 個人生活への満足度

個人生活への満足度を、家庭生活、仕事や職場、余暇、健康状態、生活全般の側面から探ってみた。家庭生活に対する満足度については、「やや満足している」(35.9%)が最も多く、「満足している」(33.2%)が続く。その合計は69.1%となり、約7割の人が家庭生活に満足感を覚えていることがわかる。不満足(「やや不満足である」と「不満足である」の合計)は16.1%であった。仕事や職場に対する満足度は、「やや満足している」(36.3%)が最も多く、「やや不満足である」(19.5%)、「どちらとも」(18.3%)と続く。満足している人の割合(「満足している」と「やや満足している」の合計)は53.4%であり、約半数の人が仕事や職場に満足していることになる。余暇に対する満足度は、「やや満足している」(31.5%)が最も多く、「どちらとも」(22.4%)、「やや不満足である」(19.1%)と続く。満足している人の割合(「満足している」と「やや満足している」の合計)は、44.1%と半数に満たなかった。不満足(「不満足である」と「やや不満足である」の合計)は33.5%であり、約3分の1の人が余暇に対する不満を感じていることがわかる。健康状態については「やや満足している」(38.6%)が最も多く、「どちらとも」(21.1%)、「やや不満足である」(19.3%)と続く。満足している人の割合(「満足している」と「やや満足している」の合計)は55.0%であり、健康状態に関しても約半数の人が満足していることになる。不満足(「不満足

表28 町の地場産業育成策 (%)

よくやっている	3.3
まあまあよくやっている	23.1
どちらとも	33.7
あまりやっていない	26.3
やっていない	13.6
合計	100.0

表29 町の高齢者福祉策 (%)

よくやっている	22.0
まあまあよくやっている	47.5
どちらとも	22.0
あまりやっていない	5.0
やっていない	3.5
合計	100.0

表30 町の少子化対策 (%)

よくやっている	3.5
まあまあよくやっている	19.2
どちらとも	27.4
あまりやっていない	31.3
やっていない	18.6
合計	100.0

表31 町づくり活動に対して (%)

積極的に参加したい	12.9
まあまあ参加したい	34.6
どちらとも	38.1
あまり参加したくない	9.4
参加したくない	5.0
合計	100.0

表32 家庭に対する満足度 (%)

満足している	33.2
やや満足している	35.9
どちらとも	14.9
やや不満足である	11.7
不満足である	4.4
合計	100.0

表33 仕事や職場に対する満足度 (%)

満足している	17.1
やや満足している	36.3
どちらとも	18.3
やや不満足である	19.5
不満足である	8.7
合計	100.0

である」と「やや不満足である」の合計)は24.0%であり、約4の1の人が健康状態に関して不満を感じていることになる。

生活全般に対する満足度は、「やや満足している」が43.9%で最も多く、「満足している」の10.5%を加えると約半数の人が生活全般に対して満足を感じていることがわかる。しかし、不満足の人割合(「やや不満足である」と「不満足である」の合計)も27.5%であり、4分の1の人々が生活全般に関して不満であることがわかる。

個人生活への満足度に関しては、家庭生活への満足度は高いが、それ以外は満足している割合は約半数にすぎないことがわかった(表32~36)。

9) 町行政に対する満足度

相生町への満足度を、町の住み心地と町に対する満足度を直接聞くことで探ってみた。町の住み心地に対する満足度は「やや満足している」(36.2%)が最も多く、「どちらとも」(25.9%)、「やや不満足である」(17.6%)と続く。満足している人の割合(「満足している」と「やや満足している」の合計)は44.7%であり半数に満たない。不満足の人割合

(「不満足である」と「やや不満足である」の合計)は、29.4%であった。相生町に対する満足度に関しては、満足している人の割合(「満足している」と「やや満足している」の合計)は33.4%、不満足の人割合(「不満足である」と「やや不満足である」の合計)は35.7%、「どちらとも」が30.8%であった。町の住み心地に対する満足度と比べて、町に対する住民の満足度は高いとはいえない(表37~38)。

4. 相生町への満足度を分かつ要因の分析

ここでは、町に対して満足している人とそうでない人とを分ける要因を探るために数量化2類を用いた分析を行う。数量化2類は、サンプルが属するグループを最もよく判別す

表34 余暇に対する満足度 (%)

満足している	12.6
やや満足している	31.5
どちらとも	22.4
やや不満足である	19.1
不満足である	14.4
合計	100.0

表35 健康状態に対する満足度 (%)

満足している	16.4
やや満足している	38.6
どちらとも	21.1
やや不満足である	19.3
不満足である	4.7
合計	100.0

表36 生活全体に対する満足度 (%)

満足している	10.5
やや満足している	43.9
どちらとも	18.1
やや不満足である	19.3
不満足である	8.2
合計	100.0

表37 町の住み心地 (%)

満足している	8.5
やや満足している	36.2
どちらとも	25.9
やや不満足である	17.6
不満足である	11.8
合計	100.0

表38 町に対する満足度 (%)

満足している	7.3
やや満足している	26.1
どちらとも	30.8
やや不満足である	20.5
不満足である	15.2
合計	100.0

表39 レンジ表

項目名	レンジ	偏相関	偏相関検定
居住理由	0.4174 1位	0.2138 4位	[**]
地場産業育成の施策	0.4164 2位	0.3476 1位	[**]
家庭に満足している	0.3627 3位	0.2956 2位	[**]
相生町は明るい	0.3418 4位	0.2147 3位	[**]
相生町が好き	0.2966 5位	0.1667 8位	[*]
町づくり活動	0.2444 6位	0.1780 6位	[*]
少子化対策	0.2106 7位	0.1738 7位	[*]
居住決定	0.2011 8位	0.2109 5位	[**]
性別	0.1162 9位	0.1163 9位	[]
暮らし向き10年の変化	0.1120 10位	0.1028 10位	[]
相生町は面白い	0.0997 11位	0.0723 11位	[]
余暇に満足している	0.0959 12位	0.0672 12位	[]
家の暮らし向き	0.0590 13位	0.0543 13位	[]

表40 判別のクロス表

	群1	群2	計
判別の中間より大	95	13	108
判別の中間より小	13	97	110
計	108	110	218
判別の中率	88.1%		
相関比	0.6118		

るように複数の質的データの各カテゴリーに数値を与える方法である。数量化2類では、各質問項目の判別への貢献度はレンジで表される。また、各カテゴリーの判別への貢献度はカテゴリースコアとして数量化される。

まず、判別の基準変量として群1（相生町に満足しているグループ：「満足している」「やや満足している」を統合した）と、群2（相生町に不満足なグループ：「不満足である」「やや不満足である」を統合した）を設定した。具体的には、レンジの大きさと偏相関係数の大きさから選択し13の変量を選んだ。分析の安定性を保つため、カテ

表41 カテゴリースコア表

項目名	カテゴリー名	n	カテゴリースコア
性別	男	108	-0.0586
	女	110	0.0576
家の暮らし向き	豊か	54	0.0371
	どちらとも	103	-0.0219
	豊かでない	61	0.0042
暮らし向き10年の変化	良くなった	41	0.0207
	変わらない	95	0.0471
	悪くなった	82	-0.0649
居住決定	自分の意志で主体的に決めた	35	0.0586
	どちらかといえば主体的に決めた	38	0.0120
	どちらとも言えない	34	-0.1130
	どちらかといえばやむをえず決めた	67	-0.0380
	周りの状況でやむをえず決めた	44	0.0881
居住理由	生まれ育った所だから	40	0.0800
	親・土地・家のことが気にかかるから	56	-0.0532
	気軽に生活しやすいから	21	0.2738
	結婚したから	81	-0.0369
	その他	20	-0.1436
相生町は明るい	明るい	80	0.1617
	どちらとも	79	-0.0292
	暗い	59	-0.1801
相生町は面白い	面白い	54	0.0406
	どちらとも	79	0.0358
	面白くない	85	-0.0591
相生町が好き	好き	98	0.0962
	どちらとも	82	-0.0220
	嫌い	38	-0.2004
地場産業育成の施策	よくやっている	55	0.2107
	どちらとも	66	0.1267
	やっていない	97	-0.2057
少子化対策	よくやっている	59	0.1201
	どちらとも	58	0.0355
	やっていない	101	-0.0905
町づくり活動	よくやっている	110	0.0507
	どちらとも	73	0.0165
	やっていない	35	-0.1938
家庭に満足している	満足	151	0.1089
	どちらとも	27	-0.2537
	不満足	40	-0.2400
余暇に満足している	満足	97	0.0453
	どちらとも	42	-0.0506
	不満足	79	-0.0287

ゴリーは適宜統合した。得られた結果をレンジの大きい順に並べたのがレンジ表である（表39）。

この結果によると、町に対する満足度を分かつ要因として最大のものは「居住理由」の違いであり、

「地場産業育成の施策」をどう評価するかなどの町行政への評価、「家庭に満足している」かどうかと続く。

「町へのイメージ評価」（相生町は明るい、好き）の違いも判別に貢献しているが、「家の暮らし向き」は影響が少ない（表39）。判別の中率は88.1%である（表40）。

カテゴリースコア表（表41）には、各カテゴリーの判別への貢献度が数量化されているが、項目名「居住理由」のところを見てみると、「気楽で生活がしやすいから」が満足に最も貢献しており、「生まれ育ったところだから」と続く。「親・土地・家のことが気にかかるから」と「その他」は不満足に貢献している。伝統的な価値観に縛られることが町に対する不満足に貢献しているといえる。「地場産業育成の施策」に関しては、「よくやっている」が満足に、「やっていない」が不満足に貢献している。「家庭に満足しているか」に関しては、「満足」が満足に、「不満足」が不満足に貢献している。個人生活の満足度が町に対する満足度に大きく影響することがわかる。

「居住決定理由」に関しては男女差が顕著なので、三元クロス表で分析した（表42）。男性の場合「親、土地、家のことが気にかかるから」が最も多く、ついで「生まれ育ったところだから」と続く。特に前者で不満足の高割合が多い。女性の場合「結婚したから」の理由で転入してきた人が圧倒的に多いが、この層で不満足が多い。結婚で転入してきた女性の満足度を高める必要が町行政に望まれる。「生まれ育ったところだから」「気楽で生活しやすいから」の理由で不満足な女性は全くなかったことは対照的である。

町への満足度を高めるためには、「地場産業の育成」につとめて町内に雇用機会を増やすことや、「町づくり」「少子化対策」等、個人生活が満足できるような施策は当然ながら有効である。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました、教育委員会、各学校の関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

表42 性別×居住理由×町への満足度の三元クロス表 (人)

	男		女	
	満足	不満足	満足	不満足
生まれ育った所だから	16	14	14	0
親・土地・家のことが気にかかる	12	26	9	12
気楽で生活がしやすいから	13	4	4	0
結婚したから	8	10	30	40
その他	3	10	5	5